

Hessenberg QR 法が各反復 $O(N^2)$ で計算可能であることを説明する.

1 Householder 変換

$x \in \mathbb{C}^N$ とする. Householder 鏡映変換:

$$H := I_N - \frac{2}{\|v\|_2^2} vv^*, \quad v = x - y$$

(ユニタリかつ $H^* = H$) により, x を長さが等しい任意の $y \in \mathbb{C}^N$ に写せる: $y = Hx$. 特に,

$$\tilde{H}_k := \begin{pmatrix} I_k & \\ & H_{N-k} \end{pmatrix}$$

により,

$$y = \begin{pmatrix} u_k \\ \text{sign}(x_{N-k,1}) \|x_{N-k}\|_2 e_{N-k} \end{pmatrix} = \tilde{H}_k \begin{pmatrix} u_k \\ x_{N-k} \end{pmatrix} = \tilde{H}_k x, \quad e_{N-k} = (1, 0, \dots, 0)^T \in \mathbb{C}^{N-k}$$

に写せる (★). 実際には H_{N-k} を表すベクトル v_{N-k} だけ覚えれば良く, また \tilde{H}_k をある行列に左から (右から) かける操作は実際には, 部分行列に対して $v_{N-k} v_{N-k}^*$ を左から (右から) かける操作として実装できる. この計算量は, 行列 1 列 (1 行) あたり $(N-k)$ の定数倍程度.

2 Householder 変換による Hessenberg 化

$A \in \mathbb{C}^{N \times N}$ とおく. 操作 (★) を用いて相似変換 $\tilde{H}_1^* A \tilde{H}_1$ を考えると, $(3, 1) \sim (N, 1)$ 成分は 0. 同様に第 2 列目以降も適切に \tilde{H}_k ($k = 2, \dots, N$) を選べば $\tilde{H}_N^* \dots \tilde{H}_1^* A \tilde{H}_1 \dots \tilde{H}_N$ は Hessenberg 形.

第 k 段の計算において, 左から \tilde{H}_k^* をかけるのは H_{N-k} を $(N-k+1)$ 個の列にかけることに等しく, 計算量は $(N-k)(N-k+1)$ の定数倍程度. よってトータル $O(N^3)$. 右からの演算部分も同様に計算でき $O(N^3)$.

3 Householder 変換による QR 分解

講義では Gram-Schmidt の直交化で説明したが, 実は Householder 変換でも QR 分解できる. 操作 (★) を, 今度は $k = 0, 1, \dots, N-1$ で左からのみ行くと, 任意の $A \in \mathbb{C}^{N \times N}$ に対して

$$\tilde{H}_{N-1} \dots \tilde{H}_0 A = R \quad \Leftrightarrow \quad A = \tilde{H}_0^* \dots \tilde{H}_{N-1}^* R.$$

ただし R は上三角行列で, $Q = \tilde{H}_0^* \dots \tilde{H}_{N-1}^*$ はユニタリ行列.

行列 A が Hessenberg 形の場合は, 第 k 段で

$$\tilde{H}_{k-1} \text{ をかける} \quad \Leftrightarrow \quad \text{第 } k \text{ 列の第 } (k+1) \text{ 成分を } 0 \text{ にする}$$

際, 操作 (★) の H_{N-k+1} で出てくるベクトル v_{N-k+1} には k によらず第 1, 第 2 成分しかない. この影響で, 第 1 節末尾で述べたかけ算の計算量は $O(1)$ に落ちて, 第 k 段の計算量は $(N-k)$ の定数倍程度. よってトータル計算量 $\sim \sum_k (N-k) = O(N^2)$.

4 Hessenberg QR 法の各ステップ計算量は $O(N^2)$

前項より QR 分解ステップは $O(N^2)$. 続く RQ ステップは, 前項の記号を用いて,

$$RQ = R \tilde{H}_0^* \dots \tilde{H}_{N-1}^*$$

であるが, 右から \tilde{H}_k^* をかける演算量も前項同様で $(N-k)$ の定数倍程度. よって RQ ステップの計算量も $O(N^2)$.